

『MRI 画像解析ソフトを用いた予後予測の検証』

【目的】

脊髄損傷後の患者様は、様々な身体機能の障害が生じます。一般的には脊髄損傷の程度が軽度の方は、発症後の回復は良好ですが、医療現場においては重度の障害の方でも良好に回復する場合もあり、どの程度回復するかを予測することは困難であります。脊髄損傷後の身体機能の障害により、発症後車椅子生活が余儀なくされる場合や一方で、お一人で歩行が可能な場合など、生活様式に差があるために、患者様によってリハビリテーションの内容が大きく異なります。具体的な回復の予測に関する報告では、5 年以上勤務経験がある療法士が 1 年後に歩行自立可能と予測した結果、実際に歩行可能となったのは 80%であり、残りの 20%は歩行自立が困難であり、移動手段に車椅子の使用が必要になったという報告があります(L Harvey et al.2012)。この回復の予測と実際の身体機能との乖離により、行わなければならなかった動作練習が不十分となり、退院後の生活の質が低下する可能性が考えられます。したがって正確な回復の予測は、リハビリテーションを行う上で退院先の決定や、目標・運動課題の設定などにおいて肝要であると考えております。そこで今回の研究では、MRI 画像から分かる損傷の程度と身体機能評価の結果を組み合わせることで回復の予測を検証することを目的とします。

【期間】研究許可日～2025 年 12 月 31 日

【方法】

<対象となる患者さん>

脊髄損傷の診断を受け 2018 年 1 月～2024 年 12 月までに入院していた患者様。

<研究に用いる試料・情報の種類>

試料：なし

情報：年齢・性別・疾患・既往歴・損傷高位・転帰・MRI 画像・(ISNCSCI・SCIM・改良 Frankel 分類・ISMG・SCIM・WISCI2・膝蓋腱反射・アキレス腱反射・Hoffman 反射・Babinski 反射・足/膝関節クローヌス・MAS・10mWT・TGUT など

◎研究への参加について

この研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、遠慮なく研究責任者にお伝えください。たとえお断りになっても今後の治療において不利益を受けることはありません。

この研究について、心配なことや、わからないことがあれば、いつでも遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産権の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター

〒573-8511 大阪府枚方市星丘 4-8-1

TEL (072) 840-2641 (代)

所属・職名 リハビリテーション部・理学療法士

研究責任者 江田 朱里